



校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



自分らしい「選択」を～輝ける明日を創ろう～

新堀 隆久

今日から6月です。スポレク祭お疲れさまでした。みなさんの楽しそうなエネルギーをひしひしと感じることができました。全員で協力してくれたおかげです。感謝！

今回は私自身のことを少しだけお話しします。今でこそ皆さんの前で話をしていますが、実は幼稚園の頃、不登園を経験しました。また、中学校では3年間、学校ではほとんど話をすることができませんでした。夏休み明け、友人とのささいな気まずさで、それ以降口をきくことができなくなりました。人が怖かったわけではありません。しかし、「話せない」という殻に入ってしまうと、人の目が気になり、声を出すことができなくなってしまったのです。周囲から心ない言葉をかけられ、傷ついた経験もありました。

高校進学するとき、同級生が誰も行かない学校を選びました。「自分を変えたい」というより、その環境から離れたいという思いが強かったのだと思います。「逃げ」かもしれませんが、環境を変えるという選択が、私にとって新しい一歩でした。

30年以上ずっと教員をやってきて、校長という立場になった今でも、朝の挨拶がうまくできるか不安になる日があります。それでも私は、「それでいい」と思っています。人にはそれぞれ得意なことで苦手なことがあり、同じである必要はありません。

それでどうやって先生やってきたの??と思う人もいるでしょう。しかし、私はそれで良いと思っています。みなさんが一人ひとり違うように、大人もいろんな人がいて、世の中が回っています。その個性を否定する権利は誰にもありません。

私は話すことが苦手だったからこそ、「書くこと」を大切にしてきました。担任時代には毎日学級通信を書き、今も先生方に向けて文章を書いています。苦手なことがあっても、別の方法で自分を表現すればよいのです。

皆さんに伝えたいのは、「弱さ」や「欠点」だと思っていることも、見方を変えれば自分らしい「生きる工夫」になるということです。元気で明るいことだけが良さではありません。静かな強さや、言葉を丁寧に紡ぐ力も、大切な個性です。一人ひとりに必ず、その人だけの強みがあります。人を見下したり、比べて優越感を得たりすることは、本当の強さではありません。大切なのは、自分らしく生きること、そして相手を尊重することだと思います。相手も自分も大切にしてください。

皆さん一人ひとりが、自分の人生の主役です。周囲と比べるのではなく、自分自身を大切に育てながら、自分らしい歩みを続けてほしいと願っています。



スポレク祭おつかれさまでした！